

第7回図書館本館再整備基本計画検討委員会の事前公開資料に対する市民意見

意見1

1. 1-10 ページ 利用者登録の状況
市外在住の方を含めると 24.0%。この数字は無意味。何の相関関係のない数字の割合を計算している。元の表でもこんな計算はしていない。
2. 1-10 ページ 館別年齢別貸出者数
10 歳未満、10 歳代の割合が太字となっているがこの年代は両親のカードを使って借りることが多いため、数字が正確ではない。読書活動振興計画を策定する時も検討したと思うが。注釈を入れたほうがいい。
3. 1-11 ページ 10 年分の図書館別個人貸出点数の推移のグラフ
平成 19 年あたり 誤 豊ヶ岡 正 豊ヶ丘
右下 単位 誤 (人) 正 (点)
4. 3-23 と 3-24 ページの間の表
5/27 案 誤 施設統計状は 5820 正 施設統計上

意見2

1. 全体的な意見
 - ・ 詳細に記述して頂き有難う御座います。願わくば、各地の図書館から、こんな感じの場をイメージしています等、写真やイラストで表示してくれるともっと分かり易いですね。
 - ・ 投資計算上、中央図書館があることによる経済効果も反映させてもらいたい。
2. 3-②-3 資料収集目標
収容能力（計画目標）の数値が少なすぎる。100 万冊を目標にすべき。今後とも書籍及び地域資料は増え続ける。特に地域資料は、多摩市にしか存在しなく永久保存として扱うべし。人類の実験地域である多摩NTの状況を後世に伝えるのに必須である。
3. 3-④-5 中央図書館の施設計画の目指すもの
 - ・ 建築物の端用性：100 年持つ建て方をしてもらいたい。
 - ・ 時代に合った利用ができるよう、フレキシビリティを最大限取り入れて建設してもらいたい。
 - ・ LCCばかりでなく、中央図書館があることによる経済効果も反映させてもらいたい。
4. 3-⑤-2 市民利用の拡大と持続可能な運営をめざした、サービス時間の見直し
休館日について
月 2 回程度では少ない、職員全員の集まる日はもっと増やすべきである。それが、将来の職員の

レベルを決めるものである。

5. 3-⑤-4 図書館運営の根幹部分は、多摩市の政策に基づいた直営を考える。

・根幹部分とは何を意味するのか。

➤ 図書館運営は、多摩市の政策に基づいた直営とする。にすべきである。

・唐木田図書館のような、窓口業務の委託は即刻やめるべきである。（お金がないと言いながらコストがかかり税金の無駄、正職員の教育にならない等）窓口業務の重要性をもっと認識すべき。

意見 3

とても丁寧に提案されているとおもいましたが、いくつか気になる点について、市民として意見を述べさせていただきます。

1. 3-④-4 具体的な資料再編方法について

「地域館や拠点館については、基本的な本や新鮮で身近な課題解決に役立つ本がらぶよう、…中央図書館では社会科学、自然科学、調べもの用の資料などの比率が相対的に高くなる」との記述について、「相対的に」との表現があるので、「地域館や拠点館」にも、「社会科学、自然科学、調べもの用の資料」が蔵書数に相応しく配置しておくこと、地域館において、「資料世界」がバランスよく感じられるようにしておくことが望まれる。

なぜなら、高齢者、子どもにとっても、本館から遠い場合、地域館・拠点館の図書館に立ち寄ることが通常となるため、そこでも、ある程度の図書館の書架を眺めて、資料世界の広がり的一端を感じることができるようにしておいてほしいからだ。

子どもにとっても、子ども向けの本だけでなく、少し背伸びをして、専門的な、あるいは難しい本にも出会う可能性を広げておきたい。地域図書館、拠点館の利用者が必ずしも、「身近な課題解決に役立つ本」を強く望んでいるとはいえないように思われる。高齢者が、研究・調査のために、地域館で、大量の本を使っているケースもあるので、ある程度の参考資料の配架は必要である。

関連して、1-13 ページの「多摩市図書館全域の蔵書配置再編への考察：7館の開架の活性化を考える」で、「動かない本：地域館の 29～39%が動いていない」とのことだが、地域館の利用者は、必ずしも、そこで本を借りて持ち帰るとは限らない。近くにあるために、図書館の中で、借りずに本を読むという利用スタイルをもちうる。重たい絵画集、参考資料に近いような研究調査用の資料は、特に、そのような利用になると思われる。

2. 3-④ 施設計画について

(1) 周りに配慮し、静かに本を読む、または静かに研究する、本や資料を汚さない等、古典的な図書館のイメージを損なわない構成にして、多摩市としての図書館のメッセージを示してほしい。提示された構成で、ある程度その点が配慮されているように思われるが、この点は保持してほしい。従って、カフェは、小規模におさえ、もし厨房を置く場合には、唐木田コミュニティーセンターにある厨房程度のものに抑えてほしい。飲み食いしながら本を読むというイメージではなく、読書・研究の合間に休憩として利用するという程度の位置づけにしてほしい。交流、その他の学習会の場合などの機能などは、パルテノン多摩に期待したい。ギャラリー等も小規模

でよく、これ以上広がらないようにしてほしい。

- (2) 書庫は将来のことを考え、二層にすることをはじめから想定しておいた方が、建築構造上も、また費用的にも、合理的なのではないか。その点が判断できるような試算があれば、提示しておいてもらえると、判断しやすいのではないかとと思われる。

3. 3-⑤ 運営と管理計画について

職員の育成は、是非、専門職制度化を念頭に、提案してほしい。

特に、「3-27」の中央図書館を中心に、他の7館を直接中央図書館とつなげる体系化はとてもよく、その場合、行政資料室も含め、8館に専門的力のある館長と職員が配置されると了解する。その配置された職員の雇用形態が安定するように、唐木田図書館の業務委託の解消、東寺方図書館への正規職員の配置を含めて、中央図書館の職員配置・育成を、多摩市の図書館全体の安定した雇用環境と育成という観点から、追及してほしい。

市民を読書や図書館利用に促す大事な要素が、熱心な図書館職員の存在と、利用者の主体性を尊重して専門性を発揮するという、専門性をもとにした謙虚な姿勢にあると思われる。そのような思想が職員間で育まれる体制を整えるためにも、提案にあるように、多摩市の図書館はすべて直営で同じ雇用環境のもとに経営されることが必要と考えられる。

基本構想、多摩市のもともとの姿勢を尊重して「3-⑤-4 図書館運営の根幹部分は、多摩市の政策にもとづいた直営を考える」という記述は、その後の記述からみても、中央図書館だけでなく、地域館・拠点館、行政資料室も含め、その「根幹部分は」は「直営」とするという意味で了解する。そこで、この点をさらに強調しておいてもらえると誤解を招かず、よいのではないかとと思われる。

また「民間における先進性などを勘案しながら」とあるが、「唐木田図書館の窓口業務」を通じたそのような「先進性」がたまたま適応されたとしても、雇用条件の格差は、多摩市の図書館全体の運営にとって、職員の育成という方向と矛盾する。「民間」に劣らぬ工夫・努力を自ら深められるように、嘱託職員の雇用環境、正規職員の専門性を活かした人事などへの提案も含めて、運営計画にもりこむとよいのではないかと思う。